



たくさんのカンパをありがとうございました！

理事長 池田光司

年末から年始にかけて、本当にたくさんのカンパが届きました。12月1日～1月15日の間に、158名の方から2,275,461円にも上る寄付が寄せられました。年末を迎えるにあたって、次年度の活動を見通せない厳しい財政状況だったチェル救にとって、本当に救いとなりました。新型コロナウイルス感染拡大が心配される厳しい状況の中、これだけ多くのご支援がいただけたこと、どれだけ感謝の言葉を重ねても足りません。それでも言わせてください。本当にありがとうございました。



コロナ禍の中、感染を心配しながら外へと足を運ばれて、寄付をしてくださった方も少なくないと思います。寄せられたご寄付は、チェル救の活動に対する一人おひとりの期待と捉えて、気を引き締めて今後の活動に役立てていく所存です。

今年度も、2千通を超えるクリスマスカードが寄せられました。人と人のつながりが希薄になりがちなコロナ禍の中、助け合い支い合える瞬間（とき）があるということはとても大切に思います。そのような瞬間が重なり紡がれるように、今後も活動を続けていきたいと思います。変わらぬご支援をよろしくお願いします。

なお、財政状況の改善につきましては、みなさまへのご寄付のお願いに加え、事務局も助成金や給付金の申請を行って、活動を継続していくための努力を続けています。その成果として、「庭野平和財団」から96万円の助成（チェルノブイリ原発事故処理作業員の医療支援）を受けることができ、また「持続化給付金（200万円）」「家賃支援給付金（26万4千円）」の支給も受けることができました。併せて、ご報告いたします。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813（月・水・金 10:00～17:00）

* 5年前に電話番号が変わっています。お間違いがないようもう一度ご確認ください。

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

初めての ZOOM 会議

「油菜のさと実行委員会」

& 「農地再生協定会」に参加して

(原 富男)

1月16日、「油菜のさと」と「農地再生協」の定例会が、南相馬市を中心に開かれ、会議の形は、コロナ対策のため Zoom を使ったリモート会議となりました。私はアナログ人なのでパソコンが苦手で、日常生活ではチェルノの關係でメールを使い、仕事の必要上パソコンは少し使う程度で、中の構造がわからないパソコンからは逃げてきました。しかしここにきて、いつまでも逃げ回るわけにもいなくなり、今回初めて Zoom 会議に参加することになりました。

午後3時から行われる予定の「油菜のさと実行委員会」は、Zoom が上手くつながらず、始まったのは夕方近くになってしまいました。

「油菜のさと」はご存じの通り、菜種油の生産とバイオエネルギーを合体させ、地域再生を図ろうとする取り組みです。

この中心施設がバイオガス発生装置であり、将来の大きな装置の前段に当たる実験規模のミニバイオガス装置が、メンバーの星野さんを中心に作られています。報告では、装置はほとんど完成し、2月中旬には原料を投入できる予定とのことでした。

装置の原料(バイオマス)は、「菜種の油かす」だけではガスの発生が少なくなるので、牛糞をはじめとした南相馬で入手できる原料を調べることが急がれています。

ミニとはいえ、装置が完成すれば一般の方々に「油菜のさと」が目指す姿を、目に見える形で提示できるので、完成が楽しみです。

「油菜のさと実行委員会」は、Zoom に慣れないこともあって短時間で終わりましたが、引き続き行われた「農地再生協の定例会」は、少し Zoom にも慣れ、私も発言することができました。

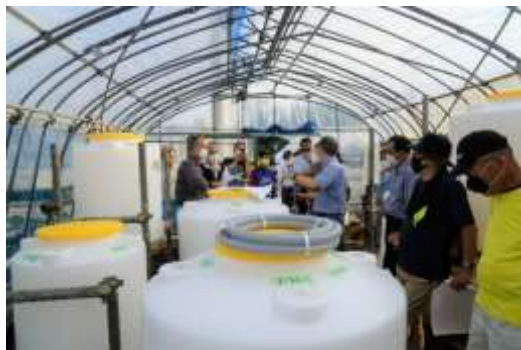
会議は、①経営改善計画書の作成、②春に開催予定の「菜の花見会」の企画、③売上報告など、多岐に渡り話し合われました。私は、経営とか経理がよくわからないのですが、いまの再生協の課題は「油菜ちゃん」の販売拡大にあります。これまで売り上げの柱であった、石鹸用原料としての「油菜ちゃん」の落ち込みを、

他で埋め合わせすることがなかなかできず、コロナの逆風もあり、厳しい状況にあります。そんな中で、南相馬市の学校給食に「油菜ちゃん」が採用されたことは、大きな励みとなっています。これに続く販路拡大を目指して、「油菜ちゃん」の品質改善の一つ、酸化防止策が検討されています。対策の一つは、搾油工程で太陽光や蛍光灯の光をどう防ぐか、またどうすれば早くろ過できるかという課題があります。そこで、ろ過工程に専用のろ過装置を使うべく、福島大学の先生に試用実験をしてもらっています。これがうまくゆけば、酸化を防ぎ搾油時間の短縮も図れることになります。また、「油菜ちゃん」の透明瓶を着色瓶に変え、酸化を防ぐ試みも始まっています。更に、成分の分離問題により生産を中止している「油菜マヨ」も、分離課題を解決して再販売できたらと考えています。

今春の「菜の花見会」は新型コロナにより、大勢の人に参加してもらうことは困難ですが、昨年の秋に「種まき会」を開催した南相馬市の菅浜圃場で開催し、好評だったパンと地元野菜を中心にしたお弁当メニューも検討されています。

状況から言えば、今の「農地再生協」は、これまでで一番大変な時期を迎えています。大勢の方のアイデアと助力で、この困難をのり切りたいと思っています。

Zoom という会議システムには、直接膝をつきわけて対話できないという制約があります。会議の役割は果たせますが、直接対面できないので、相手の心の部分を受け取れないことがあります。そんな制限はありますが、少しは Zoom にも慣れ、今後とも南相馬の話し合いに参加したいと思います。



＜バイオガスプラント予定地を視察する
種まき会参加者の皆さん(2020.09/20)＞

原子力の時代は終わった

——— 一刻も早く脱原発を実現し核の傘から抜け出よう ———

1月22日、核兵器禁止条約が国連で発効した。同条約は2017年7月に国連で122か国・地域の賛成多数で採択され、これまで52か国の署名を得て発効した。被爆者達による長い不屈な戦いの成果だ。核兵器の開発は勿論、実験・製造・保有・使用だけでなく、核による威嚇も禁止である。しかし、日本はアメリカの核の傘にしがみつki、核抑止力に頼る情けない存在だ。そして福島原発事故から10年、世界の多くの国々は原発からの撤退を決め、再生可能エネルギーが今や主流である。にも拘らず、菅政権は脱炭素社会の手段に原発再稼働を目論むなど、時代錯誤も甚だしい。今こそ「核」に依存する社会から脱皮し、新たな未来を拓く時だ。

核受容の歴史的ルーツ

1945年8月、広島と長崎の被爆地における被害状況の調査にいち早く入ったのは、日本の核兵器開発を行っていた仁科芳雄らの研究者達だった。しかし、原爆投下直後の甚大な被害に関する調査結果は、アメリカの原爆被害調査委員会 ABCC に全て没収され、被害に関する事柄は一切口にするのを禁止された。そして起こったのが、ビキニ環礁の核実験による第5福竜丸事件（1954年3月）である。船員の被ばく線量は、現在の単位で表せば1~7シーベルトに及び、久保山愛吉さんは亡くなった。これをキッカケに、国内で反核運動が広がり、日米両政府は苦境に立たされた。反米感情の高まりを恐れたアメリカは、その解決策として、損害賠償請求を日本が一切行わない事を条件に、被爆者見舞金として200万ドルを提供する代わりに、それ以降は海産物などの放射能測定や被曝調査を行わない、という秘密協定を結んだ。

このように、現在も続く福島原発事故による被ばく無視の現実、戦後の一貫したアメリカによる放射能影響に対する干渉の継続であり、洗脳の結果である。1986年のチェルノブイリ事故の後、現地調査に入った当時の広島放射線影響研究所の重松逸造らは、帰国後いち早く、放射能の影響は小さいと報告した。現在も、福島事故に関する広島や長崎の専門家は、一貫して放射能の影響を無視している。アメリカでは、原爆開発における被爆者や被曝兵士、核実験の風下先住民など数十

万人と言われる人々の被曝を、絶対に認めることが出来ない現実がある。

未来に残る原子力の負の遺産

現在、アメリカ・ロシア・中国など核保有国の核兵器は、13,400発と言われている。その90%はアメリカとロシアである。核抑止力という無謀な概念が続く限りゼロにはならない。それにもまして、地球的レベルの問題は、これまで蓄積されてきた原発の高レベル廃棄物である。アメリカやフランス等原発先進国の高レベル廃棄物は数十万トンに及び、日本国内には現在約4.4万トンあり、北海道の自治体が、金欲しさに調査は受け入れるが最終処分は拒否する。現在フィンランドを除けば、高レベル廃棄物処分はどの国も実現していない。更に、福島原発事故で発生した汚染土壌は1,400万m³、現在、大熊町と双葉町の間貯蔵施設に運び込まれているが、今後20年以内に他所に搬出する約束である。だが、中間貯蔵が永久貯蔵になる可能性は高い。

原子力村住民の義務

原子力時代の終わりとともに、核のゴミ処分が最大の課題になる。この課題を解決するのは、原子力村の専門家達の義務である。政治家の義務は、1日も早く日米安保条約から離脱し、核の傘から抜け出て核禁止条約を批准する事である。その為に市民は何をするか。全ての核に反対する政治家を選ぶのが近道だ。
(2021年1月28日 河田)

クリスマスカード発送作業風景と立体折り紙ご遠慮のお願いについて

(上田 千津子)

皆様のご協力により、今年度も約 2,500 通のクリスマスカードを子どもたちのもとへ無事送ることができました。ただ、コロナ下の郵便事情により、ウクライナへは船便でしか送ることができず、例年より到着するのは遅くなりそうです。

さて、今回は発送作業についてご紹介します。まず、それぞれのカードに合わせた紙袋にクリスマスカードと折り紙・しおりなどをセットにします。これでお 1 人分。

作業をするメンバーはその日、その年によって違いますが、だいたい 5～6 人です。チエル救のスタッフやボランティアの皆さんとともにいきます。作業は単純ですが、とにかく楽しい。すごい役得があるのです。それは、届いたカードの中身を一番最初に見られることです。袋詰めしながら「あら！こんな素敵なものがあるわ」とか、幼児の作品に「子ども画伯ね」とか。でもあまり楽しんでばかりでは作業が捗りません。ほどほどに楽しみながら進めていきます。

そんな中で、最近は送ってくださる方々の折り紙の腕も上がり、立体的で立派な作品が多く届けられるようになりました。



＜クリスマスカード発送作業の様子
(チエル救事務所にて 2020.11/18)＞



本来は嬉しいところですが、残念ながらカードとともに入れる封筒には入れられません。

なぜなら、送付の段階でせっかくの立体物が潰れてしまいますし、それを受け取った子ども達は、がっかりするでしょう。



今年度は、各保育園などに、立体折り紙だけ別の箱にまとめてお送りしました。保育園の先生方のご負担も増えてしまったのではないかと気がかりです。

そこで恐縮ですが、いつもご協力くださっている皆様にお願いがあります。

折り紙は平らなものだけで、お願いしたいのです。せっかくのお心を申し訳ないのですが、ご理解をいただけましたら幸いです。

毎年、締め切りの日まで、皆様のカードが事務所に届くかどうかドキドキしてお待ちしていますが、当日までには、どっさり届き感謝申し上げます。また、来シーズンもよろしくお願いいたします。



＜豊橋創造大学短期大学部
幼児教育・保育科のみなさん＞



福島県南相馬市の子ども達・・・

青葉幼稚園・聖愛こども園・あずま保育園からのお礼のメッセージ



これまでの9年間、日本国内やウクライナから届いたカードを、名古屋事務所で一人分ずつ袋に入れ、各施設の人数分を箱に詰めて、冬休みに入る前に「とどけ鳥」のボランティアさんがサンタクロースとトナカイになり、カードが入った袋を一人ずつ子ども達に手渡しました。

今年は、各施設に人数分のカードを郵送し、配布していただきました。その時の様子が名古屋にいても解るようにと、メッセージにして届けてくださいました。毎年、12月半ばに歓声が聞けて、とても暖かい気持ちになったことを思い出しました。来年のクリスマスはきっと、サンタクロースとトナカイが、子ども達にカードを手渡せることを期待しています。（美）



★ 事故処理作業支援



チェルノブイリの消防士たちへの支援金によって、非常事態局医療センターの、局所排気装置（ドラフトチャンバー）69,000 グリブナ（約 250,000 円）が購入・設置された。

COVID-19 のテスト件数が増えたため、検査室を拡充し、またセンターの建物と分けなければならないという問題が生じ、その建屋の工事費はセンター予算で行われるが、機器については日本の支援を充てたいと言われたため。また、前号のポレーシェで報告したが、支援金の一部で、州立成人病院のチェルノブイリ・セクションに COVID-19 対応の機器の購入・設置（12 月）を行った。

そのほかの支援としては、ホ基金と事故処理作業者の代表で協議した結果、今回は事故処理作業者への現金支給とすることを決定し、3 つの事故処理作業者の被災者団体で分配。その用途は各自決めてもらうこととし（医薬品は高価で買うことはできないが）、個々に戸外で手渡す、あるいは個別訪問とした。1 人当たり平均 250 グリブナ（約 910 円）。

以下、ドンチェヴァさんの言葉。「私は何枚か写真を撮った。事故処理作業者たちを見るのは辛いものがあった…。皆、すでに高齢化していて、悲しいことに、重い病気を抱えている。一見して誰かわからなかった人もたくさんあった。誰もがとても感謝していて、『国はもう自分たちのことを忘れてしまったのに、日本の人は覚えてくれている』と言っている。皆さんに、心からのご挨拶と感謝の言葉を伝えていただきたいとのこと。」

★ クリスマスカードキャンペーン



12 月初め、ホステージ基金より、カードの入った小包 1 箱を「救援・中部」宛に発送との連絡があった。キャンペーンの成果として、今年は 550 通のカードが集まり、チェル救宛てに 440 通、あとの 110 通は豊橋創造大学（加藤先生）と新潟県の堤丘中学校に送ったとの連絡があった。この小包は、クリスマス前に事務所へ届いた。ドンチェヴァさんは「カードが無事届いたのも大変うれしい。私たちからのお祝いのカードが日本のクリスマスに間に合ったのは、初めてではないでしょうか。」とのメッセージを送ってきた。



一方、日本からのカードは、名古屋市中郵便局より、4 箱 1,086 通を船便で送った。コロナ禍状況の中、ウクライナへの航空便はないとの情報のもと、船便での輸送となった。この 4 つの箱が、無事到着することを祈りつつ。



このことをホステージ基金のドンチェヴァさんに連絡すると、「小包の情報ありがとう、待ちきれない思いで待ちます。私は地元紙のために、私たちのキャンペーンについての記事を準備しました。コロナウイルスにもかかわらず、人々は日常生活の中で、何かポジティブで喜ばしい事柄について読んだり見たりしたがついています」とのメールが届いた。また、長年チェルノブイリの子ども達を支援しているサレジオ小からも、手紙と動画を受け取ったとのこと。生徒たちが、ウクライナの子ども達にクリスマスのお祝いを言ったり歌を歌ったりしてくれているもので、とても嬉しいとの感想を寄せた。「今日、第12番学校に行き、子ども達に観せてきます…」と。

★ ナロジチ病院と消防士達基金支援金

12月時点で、ナロジチ地区病院と消防士達基金への支援金が残っている。チュマク氏は、12月14日の「事故処理作業者の日」に現金の支援金を事故処理作業者達に渡すとのこと。

★ ホステージ基金事務所家賃免除の請願

ドンチェヴァさんより、支援とサポートのお願いをしなければならなくなったとのメールが届いた。事務所の賃借料免除に関すること。

ホステージ基金の事務所の賃貸期間は、昨年12月、人総支援問題委員会と州予算委員会で2022年11月30日までと言われていたが、急きょ賃貸料の特典は1年に限ると州議会で決定され、2020年12月までと通告された。ドンチェヴァさんは州行政に呼び出され、2021年からは賃貸料を今までの12グリブナから1,000グリブナに変更されると伝えられた。州議会はいつも、慈善団体と市民団体の賃貸料を免除して

きたのだが、あらゆる手段で州予算を補填するため、すべての特典を廃止する事としたというのだ。ドンチェヴァさんは他市民団体と協力して、州議長へ書簡を送るので、チェル救からも書簡を用意してほしいとの連絡があった。

★ ウクライナの新型コロナ情報

11月30日：非常事態局医療センターのハリナ先生についても、ひとこと言っておきたいと思います。彼女はまさに現代の英雄[ロシアの詩人・小説家レールモントフの小説(1840年)の題名]です。コロナウイルスに感染した消防士たち全員、それに他の病気の消防士たちとその家族のすべてに、彼女はコンサルテーションを行い、医師として彼らを診察するばかりでなく、センター長としての業務もこなし、さらに建屋の改修も行っているのです。消防士たちは皆彼女に大変感謝しており、彼女の力がどこからわいてくるのか、私はただ驚くばかりです…。

12月8日：この間のウクライナでのCOVID-19新規感染者数は、1日あたり1万～1万5千人で推移しています。ジトーミルの週間天気予報は最低零下7℃、最高0℃。

12月14日：こちらでは、少し新規感染者数が減り、快復者の数が増えました。「子どもたちが学校に行き始めたからには、もう万事OKだ」と、冗談を飛ばす人もいます。生活が軌道に乗り始めたと言ってもいいです。そして今、事務所の窓から第25番学校の生徒たちを見ると、たちどころに心温まる思いになります。

一方、冬は本格的になり初雪が舞いました。そして昨日はしっかり薄氷が張り、みぞれが道路を氷ですっかり覆ってしまった…。

1月15日：ウクライナでのCOVID-19の1日あたり新規感染者は、最新の数字が8,000人弱で、これが1万人を超えていたピークは過ぎたかのようなようです。退院者数が入院者数を上回る状態が継続しています。

＊ その他、吉報！…年末、事故処理作業者医薬品代支援として、庭野平和財団へ申請。96万円の助成が決定し、ホステージ基金へ伝えた。

油菜ちゃんを使った

MOTTO 油菜ちゃん

「スキンケア・クリーム」をご自分で作ってみませんか？

キット販売始めます。



<キットの中味(分かりやすい作り方付き)>

キット 1 組、送料込みで 1,000 円

(2 月中だけ 1 割引き 900 円！) です。

ヨモギ、花梨などの説明書(写真 左)を付け、これらをキットにしてお届けします。朝晩のスキンケアにお試ください。**初めての方でも 20 分以内で作れます。**出来上がりは約 60 グラム。チェル救事務局までお申し込みください。(TEL/Fax、メールをご利用ください。)

南相馬のナタネ油「油菜ちゃん」には、オレイン酸が多く、抗酸化作用の強いビタミン E も入っています。また「ヨモギエキス」には、抗炎症作用や皮膚の健康機能のあるカロテンが、「カリンエキス」は抗菌作用や抗炎症作用、抗アレルギー作用、皮膚の老化防止作用も知られています。香料は、ラベンダー・エッセンシャルオイル。他に精製ミツロウ、オリーブワックスが入っています。

作り方と使用するナタネ、ヨモギ

♪ 油菜ちゃん D0 科学 D0 健康 UP

オリーブオイル、えごま油、亜麻仁油...油の成分で注目されているのは「必須脂肪酸」。オメガ 6 脂肪酸、オメガ 3 脂肪酸など、体内で合成できない脂肪酸が含まれていて、高血圧や動脈硬化、がんやアレルギーを予防し、認知症予防にもなる、ともいわれています。

では「油菜ちゃん」はどうでしょう。「油菜ちゃん」は、国産のナタネの生搾り、エキストラバージンオイルです。市販のサラダ油は、ヘキサン(原油から精製されるベンジンの主成分)という溶剤で油を抽出していますが、「油菜ちゃん」は化学薬品を一切使いません。生搾りの菜種油は、抗アレルギー、消炎作用、がん予防にもなる、という論文もあります。そして「油菜ちゃん」は各種の必須脂肪酸がバランスよく含まれていて、とても万能な油なのです。

♪ マルシェ出店情報

笠寺観音のマルシェ「かんのんひろば」は、2 月はお休みです。次回は 3 月 27 日(土)の予定です。ぜひお立ち寄りください。



「福島原発事故から 10 年、放射能測定記録（仮題）」発刊の準備スタート！

（池田光司）

10 年にわたる放射能測定記録をまとめた冊子を発刊するための準備を始めました。福島第一原発事故が起きた年から、南相馬市を中心にして毎年春と秋に放射能（空間線量率）を測定してきました（昨年秋の測定は中止）。毎回、測定結果を基にして作成した汚染状況を示すマップは、分析結果の報告書と合わせて地元の方々に配るとともに、チェルノブイリ救済のホームページにも掲載してきました。また、測定結果の概要は、毎回ポレーシェを通して読者のみなさまにもお伝えしてきました。毎回のマップと報告書は、その時点での汚染状況を把握するために、とても役立ってきたと思います。今年 3 月に、原発事故から 10 年となります。今回、10 年間続けてきた測定をさらに活かすために、放射能汚染がどのように広がってどのように推移してきたかを、さらに測定を通してどのように放射能汚染と向き合ってきたかを、冊子にまとめることとしました。冊子は、今年 4 月に予定している春の測定を終えた後、その測定結果も含めてまとめて作成する予定です。10 年にわたり放射能汚染が継続的に定点観測されて報告された例はほとんどなく、とても貴重な冊子になると考えています。

「国際協力カレッジ 2020」に参加して

（戸村京子）

「国際協力カレッジ 2020」（主催：JICA 中部）が 2020 年 12 月 19 日（土）に開催され、団体の活動紹介にチェルノブイリ救済・中部も参加しました。15 回目の「国際協力カレッジ」は、コロナ禍で初めてのオンライン開催でした。毎年 100 名近くの参加者があり、事務局を担当する名古屋 NGO センターのスタッフの一員でもある私としても、上手くいくか不安でしたが、オンラインの Zoom（ズーム）アプリでリハサルを重ねたおかげで、スムーズに実施できました。当日は場面を随時切り替えて、以下のように進行了しました。

- 【1 時間目・メインルーム】全体会で 3 名のゲストが国際協力や経験を講義
- 【2 時間目・メインルーム】JICA 中部の会場から「SDGs について理解を深めよう」
- 【3 時間目・メインルーム】NGO 8 団体が、画像・プレゼンテーションによる活動紹介【ブレイクアウトルーム】で、各団体毎の小部屋に別れて質疑応答
- 【4 時間目・メインルーム】全体会でまとめ、【ブレイクアウトルーム】3 名程のグループで、互いに顔を見ながら感想を述べ合い、最後に【メインルーム】で「国際協力カレッジ」全体のまとめ
団体の活動紹介「多様な国際協力の活動を知

ろう！～コロナ禍における NGO の取り組み～」は、アンケートの結果「とても良かった 51%・良かった 26%」からも、例年と同じように良い評価を得たと思います。私たちの小部屋には少人数でしたが、その分深くお話しすることができたとも言えます。他の団体では、学生のインターンや若いスタッフからのアピールや活躍が多く、また「子どもの教育」や「安全な水の供給」等身近なテーマで取り組みやすいこともあり、私たちの原発や放射能の問題を今後どのように身近な問題として訴えられるかが課題です。

◆ 参加者の声（抜粋）：様々な分野の NGO がこんなにあると思っていなかった／現地の方々が自分たちで状況を良くしていくための活動をしているという話が印象的／各団体の活動と SDGs とのつながりを感じた／様々な関わり方があることを知ることができ勉強になった／取り組みがコロナ禍においても役立っていたところがすごいと思った／以前起きた世界的な事故を継続的に多面的に支援されている話を聞いて、NGO の本質について改めて理解できた

約 80 名の参加者は 10 代・20 代を中心に 60 代以上まで、九州、関西、東京、さらにカナダ在住者、トルコ駐在員など多彩で、オンライン開催のメリットも実感しました。

「ピースあいち」の《企画展》

「福島を忘れない！ 被災地に寄りそって 10 年

ー 設立から 30 年「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」の活動ー

(戸村京子)

新年を迎えてもコロナ禍の 1 月 12 日に、「戦争と平和の資料館ピースあいち」(名古屋市名東区)の吉田稔さんと赤澤ゆかりさんが、事務所に訪問されました。東日本大震災・福島原発事故の 10 年目の「3.11」を迎えて「ピースあいち」で開催される企画展の打ち合わせを、お二人とチェル救からは河田・戸村が、感染対策を取りながら行いました。

それは、『福島を忘れない！ 被災地に寄りそって 10 年ー設立から 30 年「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」の活動ー』と銘打たれ、特に私たちチェルノブイリ救援・中部の活動をメインに取り上げようという企画です。赤澤さんたちはチェル救の活動について、ホームページ等を参照しよく理解してくださっていました。しかしさらに、「パネル展示のためにこの活動の写真が欲しい」とか、「ミルクキャンペーンはどういういきさつで始めたのか」、「菜の花プロジェクトの発想は？」など、興味を持って質問されました。河田・戸村も、設立当初のいきさつ、救援活動を行うために必要な被害状況などの情報や、連携窓口を探すために送った「ソ連への手紙」のことなどを話し、次々とファイルから古い資料を引っ張り出したりしました。すると、そのころの出来事、シビアな問題が勃発したことなどが思い出されてきました。

私たちの活動は、まもなく 30 年が経とうとしていますが、しかし昨日のことのよう、当時の関係者の顔やその時の雰囲気までよみがえってきました。今の私たちは眼前の課題に頭を悩まし、解決への道が見えないままもがいたりしていますが、時には視点をリセットし、立ち止まって過去を検証したり、もっと長い視程で問題を考えることなども必要なのかもしれません。

チェル救は、自分も含め、走りながら考え

るというやり方で突き進んできました。あの頃の人脈や熱意などが生きてくることがあるのかもしれませんが。チェルノブイリ原発事故被災者支援の 30 年の活動を振り返り、ウクライナで出会ってきた人たち、訪問したいくつかの病院、「菜の花プロジェクト」を始めた汚染地の大地、共に活動しながら既に世を去って逝かれた人たちのことを思い出しました。その中から今の福島南相馬市で生き、再生に向けた活動に日々努力する人々、課題解決の方向への道筋は？など、赤澤さんたちとの打ち合わせで、期せずして、そんな諸々を考える機会にもなりました。

そして数日後、提供した写真が組み込まれたとても素敵なチラシが出来上がってきました！(今号ポレーシェに同封のチラシをご参照ください) いまだコロナ感染状況は好転したとは言えない状況ですが、この企画展が開催される頃には、皆さんに「ピースあいち」へお出かけしていただけることを願っています。



◆◆◆ 支援者の皆様からいただいたメッセージ をご紹介します ◆◆◆

(2020年4月～12月)

☆世界中が混乱と不安と悲しみの中に！あつと言う間でした。今自分にできる知恵を出して焦らず、時を待つことしかできません。待ちましょう！

☆「明けない夜はない！」

☆コロナウイルス、早くなくなってほしいです。

☆その高い志に共感しています。

☆コロナで活動大変ですが、体に気を付けて頑張ってください。少しでもお役に立てれば幸いです。

☆皆様、コロナウイルスに充分気をつけてくださいね。

☆イベント延期一次回期待します。30年の統括、共有します。

☆5人目の孫が生まれましたので、ミルクを待っている子ども達の幸せを願って送金いたします。早くコロナが収束して支援金が届きますように！

☆ご活躍お願いします。

☆全ての人々に安心と平和が訪れますように！

☆ご健闘を心から祈ります。世界平和達成の日まで…。

☆南相馬の皆さん、体に気を付けてがんばってください。

☆河田さんのコラムには心動かされます。

☆微力です。こんな支援しか出来ません。よろしく願いいたします。

☆皆様の活動をささやかですが、応援しています。

☆粉ミルク支援ずっと続けたいです。

☆コロナで、色々な活動が延期になったり、なくなったりしていますが、これからの事も考えて出来る事をしていきたいと思います。

☆世界中が厳しく大変な状況の中、長い間のご活動に頭がさがります。

☆放射能もウイルスも人間が作ったもの。人間も自然の一部であるとの発想の重大さがわかった。会員をつづけます！

☆放射線量の継続測定は貴重なプロジェクトだと思います。

☆一方で支援を続け、もう一方でチェルノブイリの歴史が風化するのか新しい原発が稼働する…どう考えればいいのか。

☆コロナに災害に様々な援助が必要でチェル救の

財政も大変かと思います。でも大切な活動、忘れられないためにも！！

☆コロナに負けないで頑張ってください

☆続けて居られる事に感謝！微力ですが応援しています。

☆福島での放射線量測定を続けていってください。

☆皆さんのガンバリ。頭が下がる思いです。

☆私も別組織で寄付集めをしています。頑張ってください。

☆年末で少しですが、応援しています。時々送金します。がんばって！

☆福島支援いつもありがとうございます。

☆今年も様々な活動お疲れ様でした。ありがとうございます。

☆今年もお疲れ様でした。

☆よいお年を！

☆今年はおんとうにお疲れ様でした。来年はよい年になりますように！！

☆またお会いできますように！

☆今年はコロナで思い通りいかないことも多かったと思います。まず皆さんが健康であっていただきたいです。またお会いできることを願っています。

☆事務局業務をはじめ、いつも大変ご苦勞様です。☆(ポレーシェ180号)1ページ目の「女性」は希望の星！感謝です。

☆がんばって続けてください。応援しています。原発ゼロへ

☆来年こそ南相馬でお会いできるように！

☆この頃ろくに通信を読まない不良会員です。カンパが少しでも役立てばと思って続けています。

☆来年も良い年であります様に！

☆“チェル救”の活動が続けられますように！

☆大変お世話様になり有難うございます。コロナ禍が続いております。皆様の御健勝を！！

☆少ないですが生きたお金になると思い寄付させていただきます。

☆関心をもち続けます。



事務局便り

11月、コロナ関連の緊急助成の話がありましたが、チェル救の事業にはあまり当てはまらないかなぁ、と思いながら申請しようかどうかと迷っていました。締め切りのわずか数日前に、再度案内が。どうも応募にまだ空きがあるようで「これは申請したらひょっとして通るかも!? 期待ありか!??」と思い、急遽事務局ミーティングで申請を決断。コロナの影響で事故処理作業者らへの医薬品支援が一部、医療機関で必要な機器への支援に切り替わってしまったことで、医薬品に充てられるお金が減ってしまっていたので、その補填になればと河田さんと申請書を作成しました。（私は予算を組んだだけですが…）結果は採択されました！ ウクライナ関係の助成金は久しぶりです。もちろんコロナに対応するための医療機器も必要であることは間違いありませんが、その一方で病気を束のように抱える事故処理作業者らの健康への支援は、コロナ禍だからこそ大切にしなければいけない。採択され無事に送金が終了した今、あの時申請して良かったと思います。12月に入ると、事務局は大忙し。クリスマスカードの発送作業にも追われ、家賃支援給付金、持続化給付金の申請手続きに奮闘し、本当に慌ただしい年末でした。その甲斐あって、12月28日仕事納めの日に、持続化給付金の振込がありました！ また皆様からのたくさんの年末カンパもあり、思いがけず懐が温まったのでした。2021年もどうぞよろしくお願いいたします。（兼松）

編集後記

- ☆おうち時間を楽しむ人が増えてキットが売れているらしい。なんと「油菜ちゃん」のスクンクリームもついにキットで販売します。マスクで荒れたお肌にとてもいいですよ。（佳）
- ☆電化製品は10年持つように作る…日本の製品は、壊れにくく長く使えるように作ってきた歴史があるのに、今や壊れるように作って次の新製品を買わせる魂胆だな、いかん！（美）
- ☆「コロナ」が再び猛威を奮い、二度目の「緊急事態宣言」が出される中、1月16日（土）の夕方に、農地再生協議会の定例会が「リモート（ZOOM）会議」の形式で開催された。「延期・中止」ではなく、何とか実施できた点はよかったが、バーチャルな世界で議論をしているようで、達成感や充実感はなかなか得られなかった。

会社に勤務していた頃、私たちの職場の合言葉は「3 現主義の徹底」であった。すなわち、問題を解決するためには、「現場」「現物」「現実」を直視した「3 現主義」に徹することが肝要！…ということである。

チェル救の被災者支援活動もまた、「単にお金の支援をするのではなく、顔と顔の見える関係を築こう！」と決め、実際に、被災地である「現場」に出向き、被災者の置かれている「現実」を直視し、必要としている「現物」を届けに行こう…という活動を展開してきた。財政的な問題もあり、代表団を現地に派遣することができなくなって久しいが、何とかこの原点に立ち返って活動できる日々が、1日も早く訪れることを願っている。（J）



〒 456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「エーブリント」
TEL・FAX (052) 871-9473